



▲当時の国道1号(現在の府道京都守口線)が通る淀川堤防沿いに建っていた枚方警察署。2階が玄関でした(昭和32年)。



▲大垣内町にある現在の枚方警察署。



▲前庁舎があった桜町交差点付近。右後方に枚方大橋が見えます。

市民の安全を守り続ける

枚方警察署

枚方警察署は大正2年、淀川改修工事の完了とともに三矢から枚方大橋近くの堤防沿いに移されました。昭和9年の室戸台風で木造庁舎が倒壊した3年後、鉄筋コンクリート3階建ての新庁舎が同じ場所に完成。真っ白な外壁に、階段室は半円形で大きなガラス張りというしゃれた建物は、着工時の新聞記事に「河北随一を誇るモダン庁舎」と書かれたほどでした。

「前方には淀川が広がり周辺は民家ばかり。とても大きくて目立っていましたよ」と話すのは、昭和40年代から警察官として交通課などで勤務していた60代の男性。「3階には道場があって、柔道や剣道で心身を鍛えました」と懐かしそうに振り返ります。当時は24時間勤務の2交代制。「人も車も急増している時代だったので交通事故が多くてね。まだ周りに田んぼが広がる道路を現場から現場へ一晩中走り回っている時もありました」。

昭和29年の法改正に伴い旧交野町域などを含む現在の管轄区域となった枚方警察署は、昭和55年に大垣内町の現庁舎へ移転。国道1号など主要幹線道路に近くなり事故や事件の発生後、すぐ現場に向かえる体制が整いました。管内人口は昭和29年の約7万人から、現在は50万人近くまで増加。平成24年度には管内から枚方市東部と交野市全域を分割し新たに交野警察署が開設され、さらなる治安の確保や利便性向上が図られます。

(平成24年1月号)